



日本音楽教育学会ニュースレター 第86号

目次

1 学会からのお知らせ

- 1. 第52回京都大会を終えて..... 田中多佳子 2
- 2. APSMER 2021 TOKYO を終えて..... 水戸 博道 3
- 3. 第10回ワークショップ in 千住 (第2報) 石上 則子・佐野 靖 5

2 委員会からのお知らせ

- 1. 編集委員会からのお知らせ..... 小川 容子 6
- 2. 関東地区理事選挙結果報告..... 高木夏奈子 6

3 音楽教育の窓

- 1. 追悼 R. Murray Schafer
万人のオンガクを追求した唯一の作曲家..... 今田 匡彦 7

4 会員の声

- 1. 第52回大会に参加して..... 劉 麟玉・市川 恵・徳富 健治 8
堀 雄紀・野村 杏莉 9
- 2. APSMER 2021 TOKYO に参加して..... 高須 裕美・森尻 有貴・壬生千恵子 10
三村 咲・結束 麻紀 11
- 3. 学会賞を受賞して..... 須田 珠生 12

5 会員の新聞・近刊等紹介..... 13

6 報告

- 1. 2021年度 日本音楽教育学会 総会..... 14
- 2. 2021年度 日本音楽教育学会 第3回常任理事会..... 19
- 3. 2021年度 日本音楽教育学会 第2回理事会..... 21
- 4. 第25期役員選出のための理事会..... 24

7 事務局より..... 25

[編集後記]

1 学会からのお知らせ

1. 第52回京都大会を終えて

第52回京都大会実行委員会委員長 田中 多佳子

私たちが、第51回京都大会開催のために最初の打ち合わせを持ったのは、一昨年、2019年9月30日のことでした。第1回開催校であった京都教育大学で、その半世紀後に再び大会を開催したいという学会の意向にそったものでした。その場で昨年10月17～18日という日程を第一候補と決め、昨年3月には、京都・奈良・和歌山・兵庫の大学所属の18名の先生方からなる実行委員会を組織しました。しかし、思いもよらなかったコロナ禍のために、4月下旬に、本部預かりのオンライン大会開催、京都大会は1年延期との決定がなされ、実行委員会はひとまず解散となりました。再び第52回京都大会のための第1回実行委員会を開催したのは本年2月でしたが、誰一人入れ替わることなく頭が下がる働きをされ、以来、大会前夜に至るまで何度も綿密な打ち合わせを重ねてきました。このように、変更につぐ変更を余儀なくされた2年以上にわたる準備期間の末、ようやく大会本番を迎え、無事終えられましたこと、感無量であります。

1年延期しても秋の美しい京都に皆様をお迎えすることは叶いませんでしたが、せめて、オンラインとはいえ本来の大会の規模と内容を心掛けました。結果、臨時会員を含む440名近くの参加を得て、82件の研究発表、10件の共同企画、院生フォーラム、そして京都と伝統芸能にこだわった実行委員会企画、と充実した大会となりました。共同企画も、通常大会と何の遜色もない、充実かつ活発な議論が行われました。おそろおそろ開催した院生フォーラムにも、沖縄の院生さんも含む20名近くの学生の参加があり、学生ならではの率直な話し合いが繰り広げられました。凝りに凝った大会実行委員会企画にも感動の声が多く寄せられました。さらに、1日目には韓国音楽教育学会会長の招待講演が行われ、2日目最後にはプロジェクト研究発表と盛況のうちに幕を閉じました。自然環境は自慢でも、オンライン環境に決して恵まれているとは言えない本学では、すべてがかなり挑戦的な試みであり、不安要因も多々ありましたが、何とか成功裡に終了できましたこと、実行委員会メンバーのみならず、本部、オンライン担当者、アルバイト学生、そして全ての参加者の方々のご協力とチームワークのたまものと、心より感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症との付き合いも2年目を迎え、世の中ではオンライン学会も当たり前になってきました。全国から研究者が集い、顔を合わせて議論をすることへの憧憬は強まる一方ですが、互いの距離や時差を乗り越えた会員たちの共同発表や、大会参加など、このような形だからこそ可能になる新たな発見もありました。実行委員会メンバーはもとより、オンライン担当として配置された学部学生たちにも、多くの貴重な学びがありました。何よりも多くの会員が一同に介して研究大会を開催することの価値を誰もが強く再確認することになりました。

新たな技術的工夫も日々生まれつつあり、オンラインと対面のハイブリッドも模索されだしました。アフター・コロナの研究や教育のあり様がどのように変わってゆくのか見当もつきませんが、新しい学会と大会の形への展開につながることを期待したいと思えます。

2. APSMER 2021 TOKYO を終えて

APSMER 2021 大会実行委員会委員長 水戸 博道

APSMER 2021 TOKYO は、およそ 200 人の参加者を 15 ヶ国以上の国々からお迎えし、盛会裡に終了することができました。実行委員の方々、そしてご参加いただいた会員の方々に深くお礼申し上げます。今号のニューズレターでは会議終了のご報告として、まずは APSMER 開催までのプロセスを振り返ってみたいと思います。

2021 年の APSMER が東京でおこなわれることが正式決定したのは 2 年前となります。第 13 回大会が東京で行われることは、2019 年のマカオ大会の理事会において承認され、クロージング・セレモニーにおいて発表されました。しかし、会議の準備はそれよりももっと前から始まっていました。国際会議開催の打診は 4 年前くらいにかかることが多く、正式決定の前に日本での開催の可能性をほぼ固めておかななくてはなりません。したがって、会議開催の準備は正式決定よりも随分前に動き出していると言えます。開催を引き受けるかどうかを決定する上で重要になってくるのは、国内のどの団体が主催を引き受けるか、そして、開催会場をどこにするかの 2 点です。今回の APSMER に関しては、日本音楽教育学会が主催をするということが早い段階で決まり、さらに開催場所についても比較的リーズナブルな会場がみつき、開催準備は順調なスタートを切れたと言えます。

順調に滑り出したかに思えた APSMER 2021 ですが、本格的な準備に取り掛かった途端にパンデミックが起り、正式決定後の 2 年間はコロナに翻弄され続けた毎日だったと言えます。先行きを見通すことが難しいコロナ禍の中、大きな国際会議を開催するということは、実行委員会にとって極めて厳しいミッションとなったのです。しかし、実行委員の方々には絶えず降りかかってくる難題を次々とクリアしていただき、何一つ滞ることなく会議の準備は進行していきました。最終的に対面会議はあきらめざるを得なかったのですが、実行委員の方々の昼夜を厭わないご尽力のおかげで、海外の多くの参加者から「オンラインにもかかわらず驚くべき数の参加者」「これまでにないスムーズなオンラインの会議」など、さまざまな賛辞をいただくことができました。今回の会議の成功の大きな要因は、音楽教育学会が主催したことであるといっても過言ではないと思います。まさに、音楽教育学会の底力が示された会議だったのではないのでしょうか。

今回の会議では、音楽教育学会の多くの会員が発表してくださり、発表いただいた方々にも心より感謝申し上げます。音楽教育学会では会員の国際会議参加を活発にするために、「英語で発表しよう」というセミナーを定期的に開催してきました。そして、この一連のセミナーの一つのゴールが今回の東京大会だったのです。東京大会では、セミナーに参加してくださった多くの方々が国際会議デビューを飾り、セミナーの成果が一つの形となったことをとても喜んでおります。

近年、研究者の業績は、分野を問わず明確な基準に基づいたポイント制で評価されることが多くなりました。そして、国際誌における論文の出版や海外研究者との共同研究には高いポイントが与えられます。もちろん海外志向に偏った業績評価にはいくつかの批判がありますが、今後、国際的な業績に対して高いポイントが与えられる傾向は加速していくことが予測されます。こうした中、国際的な業績を積み上げるための土壌となる場が国際会議であり、日本音楽教育学会がこうした場の提供の一翼を担うことができたのは、大きな意義があることであると思っております。

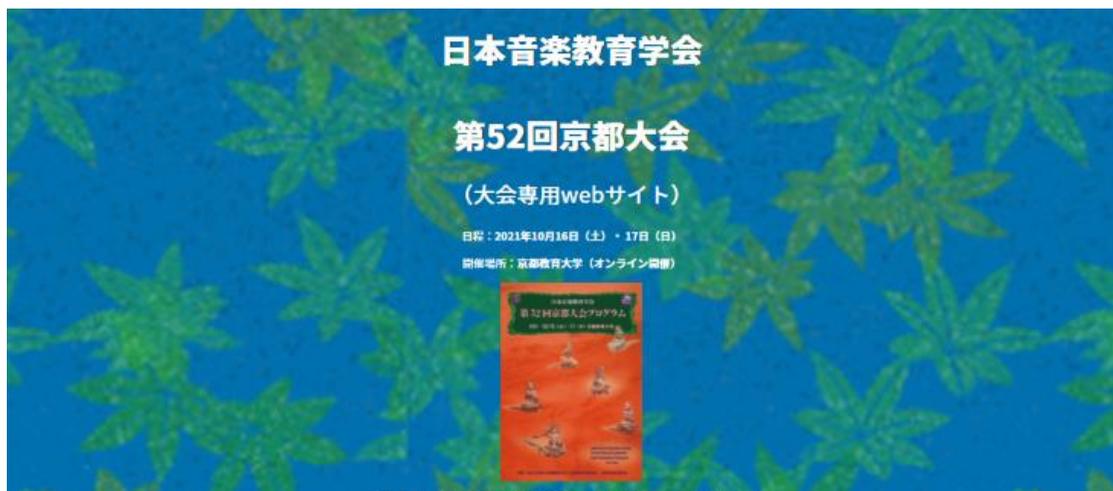
次回の APSMER はソウルです。東京大会同様に、会員の方々のより多くのご参加を期待しております。

2021.10.16-17

日本音楽教育学会第52回京都大会

第52回京都大会実行委員会

実行委員長	田中 多佳子	副実行委員長／企画担当	奥 忍・村尾 忠廣
事務局長	樫下 達也	会計／学会本部連絡	杉江 淑子
企画担当補佐	菅 道子・笹野 恵理子		
実行委員	上野 智子・岡林 典子・川邊 昭子・古庵 晶子・佐野 仁美・高見 仁志 豊田 典子・平井 恭子・増田 真結・吉田 直子・劉 麟玉		



2021.9.18-19

APSMER 2021 TOKYO

APSMER 2021 Organizing Committee

General Chair	今川 恭子	Executive Chair	水戸 博道
Chair	阪井 恵・本多 佐保美・今田 匡彦・菅 裕		
Committee Members	疇地 希美・市川 恵・伊原 小百合・小川 容子・小畑 千尋・駒 久美子 近藤 真子・高須 裕美・瀧川 淳・坪能 由紀子・長山 弘・村上 康子・森尻 有貴		

3. 第10回ワークショップin千住(第2報)

「宮城道雄作品の魅力を探り、《春の海》の演奏に挑戦しよう」

企画担当理事 石上 則子・佐野 靖

本ワークショップは、現時点では、感染症対策を十分に講じた上で「対面実施」(上限70名程度)を想定しております。ただし、感染症の状況に応じて、対面とオンライン配信を組み合わせることも検討中で、対面での開催が困難となった場合にはオンライン開催に変更いたします。

講師は、尺八演奏家・藤原道山氏。宮城道雄の人間像や音楽観に迫るとともに、《春の海》の演奏や口唱歌によるヴォイスアンサンブルにチャレンジします。

詳細に関しては、以下のワークショップのホームページをご覧ください。下記のURLもしくはQRコードからお入りください。

<https://sites.google.com/view/onkyoiku-workshop1010/>

日時：2022年3月26日(土)10時～16時30分

場所：東京藝術大学千住キャンパス第7ホール(東京都足立区千住1-25-1)

講師：藤原 道山(尺八演奏家)

参加費：会員1,000円(非会員1,500円)(*オンライン開催の場合も同額)

参加費の納入方法については、参加確定のメールにて個別にお知らせいたします。

参加申込：申し込みは、12月15日より開始いたします。以下のGoogleフォームよりお申込みください。

<https://forms.gle/uUgx7vXbnLK3WMBXA>

なお、本ワークショップは先着順となります。定員以内であることを確認した上で、Googleフォームに入力いただいたアドレスへ参加確定のメールをお送りいたします。

参加人数：ワークショップ体験40名(尺八20名、箏20名)、

レクチャー及びワークショップ聴講(実技体験なし/口唱歌体験あり)30名程度

タイムスケジュール：

10:00～11:45 宮城 道雄作品の魅力を探る(レクチャーと鑑賞)

13:00～15:00 箏・尺八を体験しよう—基礎・基本を学ぶ—

15:15～16:00 《春の海》を演奏しよう

16:00～16:30 質疑応答

その他：箏はこちらで用意します。

貸し出し用の尺八は、「なる八くん」(1尺6寸管)となります。

貸し出し用の爪は、生田流の角爪を準備いたします。

実行委員：石上 則子(元東京学芸大学)、市川 恵(東京藝術大学)、佐野 靖(東京藝術大学)

杉山 まどか(東京藝術大学)、長谷川 慎(静岡大学)

問い合わせ：日本音楽教育学会第10回ワークショップ実行委員会

onkyoiku.senju@gmail.com



※楽器経験のない方、演奏体験はしないが、レクチャーを聴講したりワークショップを見学したりしたい方もふるってご参加ください。

2 委員会からのお知らせ

1. 編集委員会からのお知らせ

編集委員長 小川 容子

第2回編集委員会と第3回編集委員会は、どちらもZoom使用によるオンライン会議となりました。第2回の編集委員会（8月1日）では、『音楽教育学』に投稿された研究論文4本のうち、再査読が1本、3本が不採択となりました。『音楽教育実践ジャーナル』では、18本の投稿原稿の採否について審議を行い、11本の原稿が採択となりました。第3回編集委員会（10月15日）では、『音楽教育学』に投稿された研究論文8本のうち、3本が採択、再査読が2本、3本が不採択となりました。

APSMER 2021 TOKYOにおいても、また第52回京都大会においても、たくさんの興味深い研究発表、ポスター発表、共同企画、プロジェクト研究等がありました。発表後の意見交換や質疑応答によって、それぞれの研究がさらに深まったと思いますので、是非、たくさんのご投稿をお寄せください。なお、総会でも報告いたしましたように、投稿はオンライン投稿に切り替わりました。投稿される際には、もう一度、投稿規定や執筆の手引き、チェックリスト等をご確認ください。

音楽教育実践ジャーナル vol.20 (通巻33号)

『音楽教育実践ジャーナル』vol.19 (通巻32号) では、特集テーマにたくさんの原稿が集まりました。ご投稿くださった皆様、本当にありがとうございました。次号(2022年12月発行予定)の特集テーマは部活動指導のあり方です。さまざまな切り口からの報告や提案等が考えられます。特集テーマに関わらない自由投稿も大歓迎です。多くの方の投稿をお待ちしております。

2. 関東地区理事選挙結果報告

選挙管理委員会委員長 高木 夏奈子

「第25期日本音楽教育学会理事選挙」の結果につきましては、ニュースレター第85号でご報告したところですが、後日、関東地区理事の当選者であった阪井恵会員が辞退されたため、「会長・理事選挙実施要領Ⅱ6(6)」に基づき、次点者を繰り上げて当選者を確定することになりました。関東地区の次点者は2名同点であったため、「会長・理事選挙実施要領Ⅱ6(3)」に基づき、繰り上げ抽選が必要になりました。抽選は、ニュースレター第85号で報告の通り、理事選挙において次点者同票が複数地区で生じたため、当選者辞退の場合に鑑み、あらかじめ繰り上げ当選順位のくじ引きを選挙管理委員会が行ったものです。2021年7月10日(土)日本音楽教育学会事務局にて、選挙管理委員会5名全員が立ち会って厳正な抽選を行い、事務局にて厳封、保管した結果に基づき、石上則子会員を関東地区の理事の当選者として決定しましたので、報告いたします。

3 音楽教育の窓

1. 追悼, R. Murray Schafer—万人のオンガクを追求した唯一の作曲家

今田 匡彦 (弘前大学)

「とても寂しいけれど、マリーはもう別の世界の住人になってしまった」と、作曲家ヒルデガルド・ウェスターカンブが R. マリー・シェーファーのアルツハイマーについて知らせてくれたのはもう数年前のことだ。シェーファーのパートナーであるメゾソプラノのエレノア・ジェームズからの「マリーは神のもとへ宇宙を動かす愛のもとへ帰る旅の最後の一步を踏み出したようです」とのメールを受け取った5日後の2021年8月16日、カナダ国営放送がシェーファーの死を世界に伝えた。

西欧の所謂ロゴス中心主義の弊害を、カナダ生まれの音楽家として、シェーファーは誰よりも理解していた。視覚的に認知される景観、風景が古くから既に言語化され〈世界〉の一部となっていたにもかかわらず、聴覚的空間は彼自身が1960年代に *soundscape* という概念を提唱するまで存在しなかった。音楽と言葉の奇蹟は音環境から生成されたにもかかわらず、「音楽」の自律を自明としてきた西洋は、聴覚空間と人間の生態学的営みを黙殺してきた。シェーファーは、ヘンデル、ハイドンからドビュッシー、アイヴズ、メシアンに至る作曲家たちと *soundscape* の密接性を主著『世界の調律』で明示しつつ、音楽教師たちには、鬼籍に入る作曲家たちの偉大な「芸術作品」の前で無言の降伏をするように子どもたちを訓練するな、とも言ったⁱ。シェーファーは、述べる。「子供たちが、例えば六歳くらいでみんなピアノを始めるとします。それで一〇歳になれば半分はやめていて...二〇歳ではたったの一%です。つまり、この場合教師が望んでいるのは真の音楽教育ではない...次のグレン・グールドのためのものなのです...でもこれでは一部以外の人にはなんにもなりませんよね。私にとって、これは悪い種類の音楽教育で、音楽教育とは万人のためのものでなくてはなりません。」ⁱⁱ 《ゴールドベルク変奏曲》を演奏する第2のグールドを養成することは、「演奏家」を養成する *conservatory* にとっては重要な使命だが、ここでの教育は、例えば最近流行りの *SDGs* が掲げる“*No one will be left behind*” (誰も取り残さない)ではなく、天才しか残さない、というマナーに根ざす。「音楽」に「雑音」を導入したサティ、「雑音」を「音楽」としたルッソロ、禅や易経により「雑音」に「音楽」的時間軸を宛がったケージなど、*soundscape* を重視した作曲家は存在する。〈天才〉〈独創〉〈芸術〉といった19世紀の亡霊と闘った彼らの関心事は、脱〈19世紀的音楽〉であったかもしれないが〈万人のための音楽教育〉では無かった。翻ってシェーファーは、子どもたちがこれから創生するオンガクとその公共性に着目した稀有な作曲家である。国連が *SDGs* を採択したのが2015年、その40年以上前からシェーファーの視点はすべての子どもたちに向けられていたのだ。

シェーファーとの私的な会話のすべてが私の記憶から消えることはない。1995年7月、慶應義塾大学での講演を翌日に控えた彼は、その通訳のためにカナダから一時帰国していた私と夕食を取った。「カナダカウンスルはなぜオペラに巨額の助成をするのかわからない。私に同じ額の助成をすればイタリアではなく、カナダ独自の音楽を創るのに！」と彼は言った。*soundscape* との往還によって魔術的に創生される子どもたち独自のオンガクは、量的訓練の堆積とは異なる方向性を持つのだろう。

ⁱ Schafer, R.M. (1965). *The Composer in the Classroom*. Toronto: Berandol Music.

ⁱⁱ 若尾裕 (1990) 『モア・ザン・ミュージック』勁草書房, p.22.

4 会員の声

1. 第52回京都大会に参加して

劉 麟玉 (奈良教育大学)

今年度の大会は実行委員会の一員として参加させていただきました。主な役割は大会期間中のZoom会議の共同ホストを担当することでした。オンライン会議への参加は初めてではなかったのですが、それほど難しいこととは考えていませんでしたが、榎下事務局長からZoom回線の契約や設定等のリクエストを受け、Zoom回線の設定も自分の仕事であることを理解しました。以前田中実行委員長にZoom設定について聞かれたことがありましたが、こういうことだったのかと理解しました。回線を購入し、ゼロから設定するという経験がそれまでなかったため、かなりの不安がありました。幸い、榎下先生が様々な情報を提供してくださり、回線とメールアドレスの取得はできましたが、今度は私の手元にある回線のライセンスをどうメールアドレスに割り振るのか苦戦しました。最終的には、試行錯誤の末、必要な作業を全て終えることができました。今は大会が無事終了し、ホッとしています。また、本大会を通してZoom設定に関する多くを学ぶことができ、個人的にも大きな収穫でした。

市川 恵 (東京藝術大学)

2年間に亘ってプロジェクト研究「小・中学校の連携を踏まえた音楽科授業の実践研究」に携わらせていただきました。今年度は、小・中学校の実践者、院生も含めた研究者、合計23名で研究を進め、6名の先生方の各1題材分の授業を観察、分析しました。コロナ禍にもかかわらず、研究活動にご理解下さり、細心の注意を払ってご協力下さった実践者の先生方、学校関係者の皆様には心より感謝申し上げます。実践の参観はもちろんのこと、授業後に実践動画を複数の目で多角的に見合い、子どもの様子や発せられた音をもとに意見交換をしていく過程は非常に刺激的で、特に子どものクリエイティブな発想やアイデアを作品へと構築していく姿には驚きの連続でした。一方で、複雑な相互作用が絡み合う音楽授業から子どもの学びの実態を捉えることは容易ではなく、各実践に応じた分析方法を試行錯誤しながら取捨選択していきました。そして、気が付けば2年間で重ねたミーティングやリフレクションは50回を越えていました。貴重な機会をいただきましたことに心より感謝致します。

徳富 健治 (東京学芸大学附属竹早小学校)

ピンチこそチャンス！そう思わずにはいられない大会でした。今回、私は「身体」の視点から音楽を学ぶ価値を導き出すことをテーマに発表を行いました。リモートでご参加頂いた先生方からアドバイス頂いた結果、私の研究発表は古典を含む理論分野の精査が不十分であるという大きな穴が見つかりました。この発見こそ、研究の質を向上させるチャンス。次の大会では、理論分野の再整理を含むかたちで継続して取り組んだ研究成果を発表したいと考えています。

また、コロナ禍の開催危機により、今回は遠く離れた自宅からの大会参加が可能となりました。これまで様々な理由で会場に赴くことができなかった会員の大会参加を容易にした点で非常に大きな価値があります。厳しい状況下で様々な困難や試行錯誤を乗り越えて運営をまとめあげた事務局には深く感謝申し上げます。目の前のピンチをチャンスに変換できる場が今後も維持され、さらに発展していくことを願います。

堀 雄紀（京都大学大学院生）

今大会では、オンライン開催ということも手伝ってか、現場の先生方をはじめ、非常に多くの方々が、高い意識と切実な問題関心をもって参加しておられる様子が印象的でした。一方で、各発表を音楽教育学「研究」として見ると、問いの立て方、手法・手続き、理論枠組み等について、細かいながらもまだまだ深めておくべき部分があり、反面、発表者ご自身の感覚や直観を活かすことをためらう様子も見られ、もったいないと思われるものが多かったことも事実です。マイケル・ポランニーは『暗黙知の次元』の中で「私たちは言葉にできるより多くのことを知ることができる」と書いています。言葉にできないからといって、そこに「知」がないことにはなりません。実践者は研究者から日々のモヤモヤを整理するヒントを得て、研究者は実践者の生々しい感性を通して理論を省察する。学会とは、そうしたダイナミックな「知」の生成を担うコミュニティでありたいものです。私自身は音楽教育の専門家ではありませんが、研究者という立場からそのお力になれるよう、今後とも精進して参ります。

野村 杏莉（滋賀大学大学院生・臨時会員）

院生フォーラムのAグループ「音楽科教育」に特化した内容について扱うグループに参加しました。フォーラム前半のグループディスカッションでは特に言語活動に関する議論が盛り上がり、各自の研究や実習・現場での経験を基に話し合いました。後半はBグループとも合流し、より広義に音楽教育を捉え意見交換しました。それぞれの視点から活発な議論ができ、時間が足りなく感じるほどでした。また、オンライン開催によって参加しやすく、全員の顔を見て交流できたことも良かったです。画面越しではありますが、一人一人の共感やなるほど、という反応を見ながら話し合うことができ、オンラインのメリットを生かした有意義な交流の時間だったと振り返ります。校種や研究テーマは違えど、同じ悩みや意識をもって研究している院生が全国にいると実感できる貴重な機会でした。他の参加者から刺激を受け、自身の研究に対するモチベーションもより高まったと感じています。

最後になりますが、企画・運営をしていただいた京都教育大学大学院の方々に感謝申し上げます。

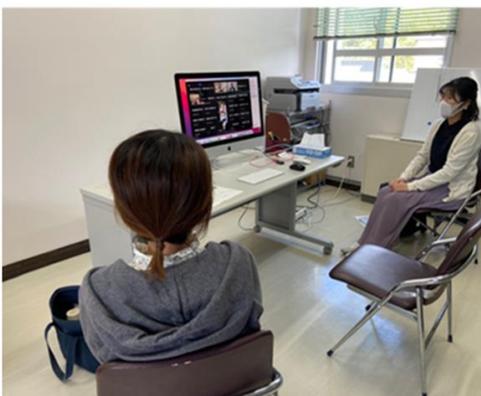


写真1 第52回大会 オンライン本部の様子（京都・奈良）

2. APSMER 2021 TOKYO に参加して

高須 裕美 (名古屋短期大学)

大会準備期間中、発表内容や申請に対応する Academic inquiry を担当しました。問い合わせに対する回答は、シンプルで丁寧な英語の言い回しに神経を使いましたが、3人の担当で常に相談する事ができたお陰で、多くの案件に素早く対応できたように思います。国際大会を受け入れる国の業務は大変ではありましたが、学会組織だからこそ乗り越えられた達成感もありました。

大会期間中は、2つのポスター発表と1つの口頭発表のセッションの司会をさせて頂きました。開会セレモニーや基調講演で本学会の方々がスムーズに司会進行されていたことに触発され、気持ちが引き締まったように思います。ポスター発表は発表者が概要説明を行い、その後ブレイクアウトルームに入って議論して頂く形式でした。意外にも多くの方々が聴衆として参加され、各々のポスタールームで議論が續いていたように見受けられました。参加者の多くは、英語が第2言語ですので、良い議論を得るために、ゆっくり伝える事が肝要であることを改めて意識する機会になりました。

森尻 有貴 (東京学芸大学)

2021年9月18日～19日にAPSMER 2021が開催されました。コロナ禍の影響で、大会の延期、オンライン大会への全面移行などを経て、実行委員会の一員として携わった経験は貴重なものとなりました。実行委員の先生方のご検討やご対応からは多くのことを学ばせて頂いたと同時に、国際学術集会での共通言語(英語)対して、課題を感じている参加者が多くいらっしゃることも、業務を通じて痛感しました。一方で、講師として参加させて頂きました、英語発表を目指した第16回ゼミナール(2020年12月)の参加者が、APSMER 2021でご発表されている姿はととても嬉しく、頼もしく感じました。

APSMERは、アジア太平洋に特化した大会のため、中国や台湾などの音楽教育に関する課題や実践に多く触れることができました。また、コロナ禍における音楽教育・音楽教育研究の実践の困難さ、課題、成果に関する研究報告が多かったことも、2021年に会議が開催できた意義・成果と考えます。今後も多くの日本人研究者が、国際的に研究発信をされる機会が増えることを願っております。

壬生 千恵子 (エリザベト音楽大学)

APSMER 2021のご成功おめでとうございます。本大会では自身の研究発表の他、二つの分科会の司会を務めさせて頂きました。ご一緒した発表者の殆どが中国語圏からで、演奏技術と指導法、教員の心理的課題等、大陸の音楽教育が抱える今日的課題が中心をなし、いずれも科学的アプローチが試みられていることが印象的でした。国策はもとより、横断的な学術データベースの充実、競争環境の激化等を背景に、近年、様々な分野で中国の研究機関の国際的躍進がみられますが、晩夏に出席したタイの国際芸術シンポジウム(ISCFA)においても、同様の傾向が感じられました。数年前、広島開催の打診を頂戴し、残念ながら実現はしませんでした。オンラインにあっても、開催地の当地性や意義は薄れていないように思われます。音楽教育において、日本の辿ってきた道筋と発展が、多くのアジア諸国にとって今なお大きな意味を持ち、また指標として一連の役割が期待されていることを再認識する貴重な機会をいただいたと思います。

私は今回初めて英語での研究発表を行った。英語で paper を書くことで日本語での説明不足に気づくとともに、限られた時間で他者に研究内容を伝えることの難しさを痛感した。私は〈Community Music Design in music education〉というタイトルの下、これまで行われていたコミュニティ音楽を相対化し、新たにコミュニティと音楽をデザインしていく音楽教育を提案する、という趣旨の発表を行った。カナダの作曲家 R. マリー・シェーファーによって提唱された〈コミュニティ音楽〉を基盤として、制度に縛られないコミュニティを探求し、音楽、教育とはなにか、を問うことが研究目的であった。また、この〈音楽、教育とはなにか〉という問いを常に持ちながらさまざまな研究発表に参加し、公共的で福祉に根差した音楽教育とはなにか、を模索する研究の数々に興味を引かれた。その一方で、〈創造的活動〉をテーマにしながらも、どこか制限があるような研究も多くあるように思えた。このシンポジウムに参加して、私は Community Music Design を切り口としながら、誰も取り残さないコミュニティ、音楽を探究していきたいとより一層感じた。

結束 麻紀 (東京学芸大学大学院生)

自身の研究を海外の方々に発信してみたいという気持ちと、アジアにおける音楽教育の研究動向を知ることができる貴重な機会を得たく、APSMER 2021 にポスター発表で参加しました。Abstract の作成においては同僚の英語の先生にみてもらい、フラッシュトークの準備はネイティブの先生から英語の表現に加え、発音のチェックもしてもらったり、発表資料については伝わりづらい英語表記なども指摘して頂き、準備しました。私はオペラを中心とした総合芸術の鑑賞について研究をしていますが、これまで自分が認識してきた「総合芸術」に該当する英語での表現が異なっていたことがわかる等、発表に向けた準備は、今後の研究に際して大きな収穫を得ることができたと感じています。また、このような状況下でも開催して下さったことに大変感謝しますとともに、これからも日本だけではなく、海外でも研究を発信する場に積極的に参加していきたいという思いが強くなりました。今回の経験を足掛かりとして、さらに研究を深めていきたいと思っています。



写真2 APSMER 2021 TOKYO 大会本部会場 (明治学院大学)

3. 学会賞を受賞して

須田 珠生（日本学術振興会特別研究員（PD））

この度、日本音楽教育学会第52回大会（京都大会）にて、第7回学会賞をいただき、大変光栄に思っております。投稿の際に査読でお世話になりました先生方、学会賞審査委員の先生方に心より感謝申し上げます。

受賞論文「近代日本の小学校にみる校歌の歌詞の変容と郷土との関わり」を執筆し始めたのは、京都大学大学院（博士課程）に在学していた頃になります。なかなか博士論文の構想も浮かばず、悶々としていた時期に書き始めた論文ですので、今回、このような賞をいただくことができ、少しばかりの安堵と身の引き締まる思いで一杯です。

学部の卒業論文で、5歳から高校卒業まで過ごした北海道の旧制中学校と高等女学校の校歌を収集し、歌詞と楽曲の分析をして以来、なぜ、日本の学校は校歌を制定するようになったのか、という問題関心から校歌をテーマにこれまで研究を進めてきました。日本人や日本の学校に就学した人にとって、校歌は身近で馴染み深い歌であることから、既に多くの研究がなされているのだろうと思っていましたが、先行研究の蓄積がほとんどないことを大学院進学後に知りました。どこにどのような史料があるのか、何から始めればよいのかよくわからず、右往左往する日々を送っていましたが、全国各地の博物館や図書館、学校の先生方のご協力で、少しずつ研究を進めていくことができました。

今回、賞をいただいた論文は、明治期から昭和戦前期までの校歌の歌詞の変容と、校歌の全国的な普及の背景についてまとめたものです。私が在学していた小中高の学校には当たりまえのように校歌が制定されており、音楽の歌の試験では校歌の歌唱もありましたが、ほかの歌とは違い、校歌は学校からうたうことを強いられているような気がして、どうにも好きになれない、という気持ちを私自身は、長く持ち続けていました。一体なぜ、学校に校歌が根づいていったのだろうかという疑問が、今回の論文を執筆する大きなきっかけとなったように思います。本論文の執筆にあたって、特に、京都市学校歴史博物館の皆さんには、資料室にある膨大な史料を何度も見せていただきました。この場を借りて、お礼を申し上げたいと思います。

新型コロナウイルスの拡大により、入学式や卒業式での「校歌斉唱」がなくなる等、校歌に対してもかつてない対応がとられています。うたうことが制限されている今だからこそ、校歌をうたうということの意味について、今後、改めて考えていきたいと思っております。

この度は、本当にありがとうございました。



5 会員の新刊・近刊等紹介

★岩本 達明 著『やんぱ先生の 楽しい音楽!』音楽之友社 2021/7/28 B5判・96頁

ISBN : 978-4276321755 [本体2,100円+税]

ありそうでなかった、高校音楽の指南書!「合唱エクササイズ リトミック編」(カワイ出版)の著者でもある、高等学校教諭の岩本達明が、3年間の濃密でユニークなアイデアに富んだ授業実践例を紹介。高校のみならず、音楽に係わる多くの人に、沢山のヒントを与えてくれる本である。

★榎 英子/末永 昇一/木下 和彦 著『ふしぎだね。きれいだね。たのしいね。一体験から学ぶ

領域「環境」「表現」に関する専門的事項一』学校図書株式会社 2021/8/6 B5判・128頁

ISBN : 978-4762502446 [2,200円(税込)]

環境、表現(造形、音楽)の視点から、土、風、水などを含む様々な素材と豊かに関わる活動が多数紹介されている保育者養成課程向けテキスト。全頁カラーで挿絵や写真を多く掲載している。環境から音を探求する体験を大切にしており、音符や五線譜を用いていない点が特色である。

★大熊 信彦/酒井 美恵子 編著『中学校音楽科教師のための授業づくりスキル コンプリートガ

イド(中学校音楽サポートBOOKS)』明治図書出版 2021/9/16 A5判・176頁 ISBN : 978-

4-18-349726-0 [2,310円(税込)]

音楽の授業をきっかけに、生徒が生涯にわたり音楽に親しみ豊かな人生を送ることを願って作成した。指導全般、個別配慮、環境、ICT、各領域の指導等の11のカテゴリーで80のスキルを紹介している。

★岩井 智宏 著『子どもがもっとアクティブに! 小学校音楽「言葉がけ」のアイデア100(音楽

科授業サポートBOOKS)』明治図書出版 2021/10/22 A5判・136頁 ISBN : 978-

4183609366 [2,046円(税込)]

「言葉」には人が想像している以上に強い力が宿っていると感じる。それを教えてくれたのは子どもたち。たった一つの言葉で大きな成長をみせてくれたり、その逆も味わわせてくれた。そんな子どもたちとの現場からうまれた効果的であった100の言葉を7つの場面にわけて紹介している。

★山田 俊之 著『ボイスアンサンブル&ボディパーカッション de リズム合唱—すべての子どもが楽

しめるインクルーシブ教育教材—』明治図書出版 2021/10/28 B5判・104頁 ISBN : 978-

4183186232 [2,420円(税込)]

“音程がない言葉のリズム合唱”として、小・中・特別支援学校の児童生徒達と実践してきた教材をまとめた曲集である。ボディパーカッションも取り入れ、発語が難しい子どもや障害(知的・聴覚)の有無に関わらず全ての子ども達が楽しめるインクルーシブ教育教材として活用して頂きたい。

ニュースレターでは「会員の新刊・近刊等紹介」「会員の声」への皆様のご投稿をお待ちしております。書籍、CD、DVDなどのリリースの情報がありましたら、基本的な書籍情報、音源情報に加えて「である調」90字程度の紹介文をお送りください。

投稿先アドレス☞(半角)onkyoiku@remus.dti.ne.jp

6 報告

1. 2021年度 日本音楽教育学会 総会

日 時：2021年10月16日（土）16:10～17:05

場 所：オンライン開催（Zoom）

開会に先立ち、木村充子事務局長より、出席者130名、委任状237通、合計367名であることが報告された。会則第13条に基づき、会員総数（1,584名）の5分の1の定足数（317名）を満たしていることにより、総会の成立が確認された。

1. 開会の辞 本多佐保美副会長

2. 会長挨拶 今川恭子会長

24期として2回目の総会を迎えたが、コロナ禍でもオンライン大会の実施や電子投稿開始、ニューズレターのWeb化、APSMER 2021 TOKYO 大会等の国際化の取り組みなどの成果があったことに謝意が示され、残り半年の任期への協力依頼があった。

3. 議長選出 菅道子会員（和歌山大学）が選出された。

4. 報告事項

(1) 会務報告（木村）

総会資料に基づいて、2020年10月17日～2021年10月17日までの会務報告があった。

2020年	10月17日	第51回大会・総会（オンライン開催）
	12月18日	ニューズレター第82号発行
	12月31日	『音楽教育実践ジャーナル』vol.18発行
2021年	2月11日	2020年度第4回編集委員会（Web会議）
	2月20日	2020年度第4回常任理事会（Web会議）
	3月18日	ニューズレター第83号発行
	3月31日	『音楽教育学』第50巻第2号発行
	3月31日	2020年度会計決算
	4月18日	2020年度会計監査会（Web会議）
	4月24日	2021年度第1回常任理事・理事会（Web会議）
	5月8日	2021年度第1回編集委員会（Web会議）
	5月18日	ニューズレター第84号発行
	6月15日	第52回大会研究発表・共同企画申込・要旨締切
	6月19日	第25期会長・理事選挙関係書類発送
	7月5日	第52回大会研究発表受理通知
	7月10日	第52期会長・理事選挙開票（事務局）
	7月11日	2021年度第2回常任理事会（Web会議）
	8月1日	2021年度第2回編集委員会（Web会議）
	8月18日	ニューズレター第85号発行
	8月31日	『音楽教育学』第51巻第1号発行
	8月31日	第52回大会プログラム発送
	9月18-19日	APSMER 2021 TOKYO
	9月27日	第52回大会参加申込締切
	9月30日	第52回大会参加費振込締切
	10月15日	2021年度第3回編集委員会（Web会議）
	10月15日	2021年度第3回常任理事会、第2回理事会（Web会議）
	10月16-17日	第52回大会・総会（京都教育大学／オンライン開催）

(今後の予定)

2022年	12月下旬	ニュースレター第86号発行
	12月下旬	『音楽教育実践ジャーナル』vol.19発行
	2月中旬	2021年度第4回常任理事会
	2月中旬	2021年度第4回編集委員会
	3月下旬	ニュースレター第87号発行
	3月下旬	『音楽教育学』第51巻第2号発行
	3月26日	第10回ワークショップ
	3月末日	2021年度会計決算

(2) 選挙報告 (高木夏奈子選挙管理委員会委員長)

第25期会長・理事選挙が滞りなく実施されたことが報告された。選挙結果確定後、関東地区当選者の阪井恵会員から特別な事情による当選辞退の申し出があり、日本音楽教育学会理事選挙実施要領6(5)の規定に従い、この申し出を受理、関東地区の次点者が同票で2名だったため、同6(3)の規定に従って厳正な抽選が実施され、石上則子会員が繰り上げ当選となったことが報告された。

(3) 各委員会等から

・編集委員会 (小川容子委員長)

『音楽教育学』第51巻第2号と『音楽教育実践ジャーナル』vol.19の編集の進捗状況、ならびに投稿の方法が郵送からオンラインへと変更されたことが報告された。

・国際交流委員会 (水戸博道委員長)

国際交流委員会として、後述のAPSMERの大会を実施したことが報告された。

・広報委員会 (権藤敦子委員長)

ニュースレターのうち、5月と12月はWeb配信のみとなり、マイページもあわせて活用してほしい旨が報告された。記事、新刊の紹介等についての会員への協力依頼と共に、『音楽教育研究ハンドブック』(2019)の活用法についても掲載中であることが周知された。

・学会賞審査委員会 (今川恭子委員長)

本日の総会に先立ち第7回学会賞の表彰を行えたことが報告された。

受賞者：須田 珠生 会員

授賞対象論文：「近代日本の小学校にみる校歌の歌詞の変容と郷土との関わり」

(『音楽教育学』第49巻第2号)

・APSMER 大会実行委員会 (水戸博道委員長)

総会資料に基づき、APSMER 2021 TOKYOのオンライン大会の報告がなされた。参加者236名、発表者153名と予想を上回る盛会であった。日本人発表者99名の内88名が本学会員で、「英語で発表しよう」のワークショップの成果も顕著に見られた。

・音楽文献目録委員会 (長野麻子委員)

2021年4月からオンライン化され、データベースも更新される予定で、日本ポピュラー音楽学会も今年度より加わったことが報告された。本サイトは、一般には有料だが、本学会員は学会HPよりアクセス可能である旨が周知された。

(4) 第10回ワークショップについて (佐野靖企画担当理事)

2022年3月26日(土)東京藝術大学千住キャンパスにて、藤原道山氏(尺八演奏家)を講師に「宮城道雄作品の魅力を探り、《春の海》の演奏に挑戦しよう」をテーマに開催予定であり、対面とオンライン両面から検討中であることが報告された。

(2) 2021年度事業計画(木村)及び補正予算(杉江)

総会資料に基づき、2021年度事業計画の日付確定が報告され、承認された。

2021年	4月18日	2020年度会計監査会(Web会議)
	4月24日	2021年度第1回常任理事・理事会(Web会議)
	5月8日	2021年度第1回編集委員会(Web会議)
	5月18日	ニュースレター第84号発行
	6月15日	第52回大会研究発表・共同企画申込・要旨締切
	6月19日	第25期会長・理事選挙関係書類発送
	7月5日	第52回大会研究発表受理通知
	7月10日	第52期会長・理事選挙開票(事務局)
	7月11日	2021年度第2回常任理事会(Web会議)
	8月1日	2021年度第2回編集委員会(Web会議)
	8月18日	ニュースレター第85号発行
	8月31日	『音楽教育学』第51巻第1号発行
	8月31日	第52回大会プログラム発送
	9月18-19日	APSMER 2021 TOKYO
	2022年	9月27日
9月30日		第52回大会参加費振込締切
10月15日		2021年度第3回編集委員会(Web会議)
10月15日		2021年度第3回常任理事会, 第2回理事会(Web会議)
10月16-17日		第52回大会・総会(京都教育大学/オンライン開催)
12月下旬		ニュースレター第86号発行
12月下旬		『音楽教育実践ジャーナル』vol.19発行
2月中旬		2021年度第4回常任理事会
2月中旬		2021年度第4回編集委員会
3月下旬		ニュースレター第87号発行
3月下旬		『音楽教育学』第51巻第2号発行
3月26日		第10回ワークショップ
3月末日		2021年度会計決算

2021年度補正予算案について説明があり、承認された。

I 一般会計		2021年度補正予算		<2021年度その他会計(案)>	
収入		支出			
科目		科目			
前年度繰越見込金	7,266,121	大会運営費	2,280,000	II 研究出版基金	¥3,238,735 ①-②
正会員会費※1	10,969,000	大会実行委員会経費	700,000	収入	
7,000×正会員実数1,567※2		事務局経費	1,380,000	2020年度までの積立金	¥2,938,735
学生会員会費	12,000	フロンティア研究	200,000	2021年度積立金	¥500,000
団体会員会費	40,000	学会誌費	2,500,000	支出	
賛助会員会費	300,000	音楽教育学発行費	1,650,000	APSMER関連	¥200,000 ②
学会誌売上金	300,000	実践ジャーナル発行費	850,000	III 学会基金	¥2,069,363 ①-②
本誌代		ニュースレター費	200,000	収入	
送料収入		例会運営費	840,000	2020年度までの積立金	¥1,619,363
大会参加費	1,200,000	通信・郵送費	1,250,000	2021年度積立金	¥700,000
その他	20,000	会議費	20,000	支出	
大会実行委員会返金		旅費・交通費	1,500,000	HPシステム構築・改良費用	¥200,000
例会運営費返金		HP管理費	270,000	学会賞	¥50,000 ②
雑収入		事務局費	4,805,000	IV ゼミナール・ワークショップ基金	¥1,349,642 ①-②
		事務費	450,000	収入	
		人件費	2,700,000	2020年度までの積立金	¥1,349,642
		事務局運営費	1,600,000	2021年度積立金	¥150,000
		事務局員保険費	55,000	支出	
		分担金	280,000	ゼミナール・ワークショップ補助金	¥150,000 ②
		選挙積立金	250,000	V 国際交流基金	¥1,297,737 ①-②
		ゼミナール/ワークショップ基金	150,000	収入	
		国際交流基金	500,000	2020年度までの積立金	¥1,447,737
		研究出版基金	500,000	2021年度積立金	¥500,000
		学会基金	700,000	支出	
		予備費	4,262,121	韓国学会会長招聘	¥100,000
				国際交流促進事業費	¥50,000
				APSMER大会関連	¥500,000 ②
				VI 選挙積立金	¥188,568 ①-②
計	20,107,121	計	20,107,121	収入	
				2020年度までの積立金	¥438,568
				2021年度積立金	¥250,000
				支出	
				第25期選挙	¥500,000 ②

※1 特別会員2名を含む。

※2 正会員実数は7月10日現在。自然退会者抜き。

(3) 2022 年度事業計画 (木村)

総会資料に基づいて説明があり、承認された。

2022 年	4 月中旬	2021 年度会計監査会
	4 月下旬	2022 年度第 1 回常任理事・理事会
	4 月下旬	2022 年度第 1 回編集委員会
	5 月中旬	ニュースレター第 88 号発行
	6 月中旬	第 53 回大会研究発表・共同企画申込・要旨締切
	7 月上旬	第 53 回大会研究発表受理通知
	7 月中旬	2022 年度第 2 回常任理事会
	8 月上旬	2022 年度第 2 回編集委員会
	8 月中旬	ニュースレター 第 89 号発行
	8 月下旬	『音楽教育学』第 52 巻第 1 号発行
	8 月下旬	第 53 回大会プログラム発送
	8 月	第 17 回音楽教育ゼミナール
	9 月下旬	第 53 回大会参加申込・参加費振込締切
10 月	2022 年度第 3 回編集委員会	
11 月上旬	2022 年度第 3 回常任理事会・第 2 回理事会	
11 月上旬	第 53 回大会・総会 (国立音楽大学)	
12 月下旬	ニュースレター第 90 号発行	
12 月下旬	『音楽教育実践ジャーナル』vol.20 発行	
2023 年	2 月中旬	2022 年度第 4 回編集委員会
	2 月中旬	2022 年度第 4 回常任理事会
	3 月下旬	ニュースレター第 91 号発行
	3 月下旬	『音楽教育学』第 52 巻第 2 号発行
	3 月末日	2022 年度会計決算

(4) 2022 年度予算 (杉江)

大会プログラム掲載資料に基づいて説明があり、原案の通り承認された。

2022年度予算

I 一般会計		収入		支出	
科目		科目		科目	
前年度繰越見込金	4,262,121	大会運営費	2,280,000	大会運営費	2,280,000
正会員会費※1	10,969,000	大会実行委員会経費	700,000	大会実行委員会経費	700,000
	7,000 × 正会員実数1,567※2	事務局経費	1,380,000	事務局経費	1,380,000
学生会員会費	12,000	プロジェクト研究	200,000	プロジェクト研究	200,000
団体会員会費	40,000	学会誌費	2,500,000	学会誌費	2,500,000
賛助会員会費	300,000	音楽教育学発行費	1,650,000	音楽教育学発行費	1,650,000
学会誌売上金	300,000	実践ジャーナル発行費	850,000	実践ジャーナル発行費	850,000
		ニュースレター費	200,000	ニュースレター費	200,000
本誌代		例会運営費	640,000	例会運営費	640,000
送料収入		通信・郵送費	1,250,000	通信・郵送費	1,250,000
大会参加費	1,400,000	会議費	20,000	会議費	20,000
その他	20,000	旅費・交通費	1,500,000	旅費・交通費	1,500,000
大会実行委員会返金		HP管理費	270,000	HP管理費	270,000
例会運営費返金		事務局費	4,805,000	事務局費	4,805,000
雑収入		事務費	450,000	事務費	450,000
		人件費	2,700,000	人件費	2,700,000
		事務局運営費	1,600,000	事務局運営費	1,600,000
		事務局員保険費	55,000	事務局員保険費	55,000
		分担金	280,000	分担金	280,000
		選挙積立金	200,000	選挙積立金	200,000
		ゼミナール/ワークショップ基金	100,000	ゼミナール/ワークショップ基金	100,000
		国際交流基金	100,000	国際交流基金	100,000
		研究出版基金	100,000	研究出版基金	100,000
		学会基金	150,000	学会基金	150,000
		予備費	2,908,121	予備費	2,908,121
計	17,303,121	計	17,303,121		

※1 特別会員2名を含む。

※2 正会員実数は7月10日現在。自然退会者抜き。

<2022年度その他会計(案)>

II 研究出版基金	収入	支出	
収入	収入	支出	
2021年度までの積立金	¥3,238,735	2021年度までの積立金	¥3,238,735
2022年度積立金	¥100,000	2022年度積立金	¥100,000
		支出	¥0
			¥0
III 学会基金	収入	支出	
収入	収入	支出	
2021年度までの積立金	¥1,369,363	2021年度までの積立金	¥2,069,363
2022年度積立金	¥150,000	2022年度積立金	¥150,000
		支出	¥850,000
		HPシステム構築・改良費用	¥100,000
		名簿作成費	¥750,000
		学会賞	¥0
IV ゼミナール・ワークショップ基金	収入	支出	
収入	収入	支出	
2021年度までの積立金	¥1,299,642	2021年度までの積立金	¥1,349,642
2022年度積立金	¥100,000	2022年度積立金	¥100,000
		支出	¥150,000
		ゼミナール・ワークショップ補助金	¥150,000
V 国際交流基金	収入	支出	
収入	収入	支出	
2021年度までの積立金	¥1,197,737	2021年度までの積立金	¥1,297,737
2022年度積立金	¥100,000	2022年度積立金	¥100,000
		支出	¥200,000
		韓国学会会長招聘	¥100,000
		国際交流促進事業費	¥100,000
VI 選挙積立金	収入	支出	
収入	収入	支出	
2021年度までの積立金	¥388,568	2021年度までの積立金	¥188,568
2022年度積立金	¥200,000	2022年度積立金	¥200,000

(5) 第53回大会について 於 国立音楽大学 (今川)

2022年11月5日(土)、6日(日)(予定)に国立音楽大学での開催が提案され、承認された。会場校担当の津田正之会員より、対面とオンラインの両可能性で準備中との報告がなされた。

(6) 第54回大会候補地について (今川)

北海道・東北地区を担当とし、担当大学、会場は調整中であることが報告され、承認された。

(7) 次期役員について (今川恭子会長・権藤敦子次期会長)

第25期日本音楽教育学会会長・理事選挙において権藤敦子次期会長と20名の理事が選出されたことが報告された。続いて、会則第10条に則り次期役員が提案され、承認された。

会 長：権藤 敦子

副会長：有本 真紀

事務局長：齊藤 忠彦

常任理事：今川 恭子 今田 匡彦 菅 道子 木村 充子 笹野恵理子 嶋田 由美

菅 裕 杉江 淑子 寺田 貴雄

理 事：石井ゆきこ 石上 則子 伊藤 真 小畑 千尋 國府 華子 新山王政和

津田 正之 三村 真弓 山下 薫子

会計監事：島崎 篤子 伊藤 誠

6. 議長解任

7. 閉会の辞 本多副会長

2. 2021年度 日本音楽教育学会 第3回常任理事会

日 時：2021年10月15日(金) 13:00~14:00

場 所：オンライン開催 (Zoom)

出席者：今川、本多、木村、石上、小川(記録)、権藤、齊藤、佐野、嶋田、杉江、水戸

会長挨拶の後、資料に基づき会務報告の確認がおこなわれた。会務報告の中で、オンライン大会になったために参加申込締切日を3日間遅らせ、9月27日を締切日としたことが報告された。あわせて、資料に基づき7月11日以降におこなわれたメール審議の報告がなされ、承認された。内容は、理事選挙における関東地区当選者の就任辞退、それに伴う次点者の繰り上げとその結果についてである。なお、第2回理事会と重複しない審議事項・報告事項を中心に審議・報告が行われた。

【審議事項】

1. 新入会員及び退会者について (木村)

7月11日の常任理事会以降、正会員新入会19名、申し出退会1名があり、10月15日現在、正会員1,584名、学生会員3名、名誉会員2名、特別会員2名であることが報告され、承認された。あわせて、再入会希望の会員1名(会費未納により自然退会となったが、未納年数分の会費納入がなされたため)に関する報告と、これに伴う会員番号の変更の可能性が報告され、承認された。

2. 総会議題の確認 (木村)

総会資料の確認を行い、(1) 会務報告、(2) 選挙報告、(3) 各委員会等の報告が、順になされることが確認された。なお、(2) は権藤次期会長から報告されることが確認され、(4) 第10回ワークショップに関するお知らせをおこなうことも確認された。

3. 第53回大会について (今川)

国立音楽大学が大会校となり開催予定であることが報告され、承認された。日程は調整中である。

4. 第54回大会候補地について (今川)

北海道・東北地区で開催予定であることが報告され、承認された。

5. 次期役員について (権藤)

明日(10月16日)、第25期日本音楽教育学会新理事による第1回目の打合せがおこなわれることが報告され、承認された。

6. 採否決定のための臨時委員会の設置 (小川)

『音楽教育学』に編集委員から研究論文が投稿されたため、編集委員が投稿した場合の内規に基づき、小川編集委員長より理事会に報告と依頼があり、理事の中から2名の担当委員を選出することについて了承された。担当委員に対して事務局から論文が送付されること、担当委員が査読者を複数選定して査読をすることなど、今後の手順が確認された。

7. その他

今川会長から、MEP (Music Education Policy Group) に加入するかどうかについて、説明があった。加入することに伴うメリット・デメリット、会費の負担、学会内の担当部署をどこにするか等、審議するために必要な情報が不十分であるため、今後情報収集をしつつ、継続審議とすることが提案され、了承された。

【報告事項】

1. 第13回 ASPEMR 2021 TOKYO 大会について (水戸)

水戸理事から、次の報告があった。(1) 学会ならびに学会員の多大なる協力により盛会であった、(2) オンライン大会となり予測がつかない状況であったが、想定を大幅に上回る参加が得られた、(3) 結果として収支は黒字となったため、ISMEからの補助金を辞退する、(4) 残額の用途については学会員に有益な形で還元したい、(5) Proceedings 掲載の論文については、オンラインで出版済。上記の(4)については、若手研究者への支援、国際交流基金への寄付等、継続審議とすることとなった。

上記以外については、すべて第2回理事会で報告されることとなった。

〈次回会議の予定〉 第4回常任理事会 2022年2月20日(日) 14:00～(オンライン)

.....

3. 2021年度 日本音楽教育学会 第2回理事会

日 時：2021年10月15日（金）14:30～16:00

場 所：オンライン開催（Zoom）

出席者：今川、本多、木村、石上、小川、梅藤、齊藤、佐野、嶋田、杉江、水戸、加藤、川口、國府、
笹野、新山王（記録）、津田、尾藤、日吉、村尾

開会に先立ち、今川会長から挨拶があり、2回続けて遠隔方式での大会開催にはなつたが、新型コロナウイルス感染拡大の中でも学会の歩みを止めることなく進むことができたことに謝意が示された。また、音楽の教えと学びを止めることなく、残り半年の任期への協力依頼があった。

【会務報告】〈2021年7月11日以降〉（木村）

大会参加申込締切日の変更について、遠隔方式の大会開催では大会当日の参加申込ができないため、3日間延長した旨、補足説明があった。

8月1日	2021年度第2回編集委員会（オンライン）
8月18日	ニューズレター第85号発行
8月31日	『音楽教育学』第51巻第1号・第52回大会プログラム 発行・発送
9月18、19日	ASPEMR 2021 TOKYO
9月27日	第52回大会参加申込締切（9月24日から27日に延長）
9月30日	第52回大会参加費振込締切
10月15日	2021年度第3回常任理事会、第2回理事会（Web会議）
10月15日	2021年度第3回編集委員会（Web会議）

- ・ 高木夏奈子選挙管理委員長より、会則並びに細則の改訂について提案があり、次期へ引き継ぐことが報告された。
- ・ 関東地区の理事当選者である阪井恵会員から辞退の申し出があり、「日本音楽教育学会選挙実施要領」に従って辞退理由を会長が了承した上で、次点者の繰り上げ手続きに入ることが報告された。繰り上げ抽選の結果、石上則子会員を理事に選出したことが報告された。

【審議事項】

1. 新入会員及び退会者について（木村）

正会員19名の新入会と正会員1名の申出退会、及び、会費未納で自然退会となった会員の再入会について、審議の結果承認した。再入会については会則に基づいて新入会の手続きを開始する。

（2021年10月14日現在 正会員1,584名 学生会員3名 名誉会員2名 特別会員2名）

- ◆正会員 新入会員・再入会員（2021年7月11日常任理事会報告以降）

個人情報保護のため削除しました

2. 総会議題の確認（木村）

総会資料に基づき、総会議題を確認し承認された。

3. 2021年度補正予算、2022年度予算について（杉江）

会員数変動を反映した部分を含めて説明され、承認された。なお、事務局の賃貸契約に関わり、転居が検討されており、必要経費については2022年度の補正予算へ組み入れる予定であることが報告された。

4. 第53回大会について（今川・津田）

今川会長より、2022年の第53回大会は国立音楽大学で実施することが報告された。続いて実行委員長の津田正之会員より、11月最初の土・日に開催を予定して準備を進めていることが報告された。なお新型コロナウイルス感染症の影響が読めないことから、対面方式と遠隔方式のどちらでも対応できる内容にすること、音楽教育分野だけではなく幼児教育科の教員からも大会開催に向けて協力の申し出のあったことが報告された。

5. 第54回大会候補地について（今川）

第54回は北海道・東北地区で開催予定であることが確認され、両地区の担当理事に開催校の検討について依頼がされた。できれば、2022年度4月開催の第1回理事会までに、開催校の候補を絞りたい。なお、2023年度は関東地区で開催予定であることが報告され、承認された。

6. 次期役員について（榎藤）

次期役員については大会1日目の新理事会において決定予定であるとの説明があった。

7. 採否決定のための臨時委員会の設置（小川）

小川編集委員長より、「編集委員が投稿した場合の取り扱い（覚書）」に則り、臨時委員会の設

置が要請され、承認された。臨時委員会には、複数の査読者に査読を依頼し、その結果をもとに採否を決定して年度内に編集委員会へ報告するよう依頼がされた。

8. その他

今川会長より MEP (International Music Education Policy Group) への本学会の参加について検討していること、現在情報収集中であるため継続審議にすることが報告・了承された。

【報告事項】

1. 各委員会等報告

(1) 編集委員会 (小川)

8月1日に行われた第2回編集委員会の報告が行われた。第3回委員会は10月15日、理事会後にオンラインで開催予定。2021年12月発刊予定の『音楽教育実践ジャーナル』vol.19(通巻32号)、及び2022年3月発刊予定の『音楽教育学』第51巻第2号について現在作業を進めていること、2022年12月発刊予定の『音楽教育実践ジャーナル』vol.20(通巻33号)の特集テーマ「部活動指導のあり方」の原稿募集については、8月発行のニュースレターで周知されているが、今後ホームページでも告知を行う予定である。

(2) 国際交流委員会 (水戸)

国際交流委員会と ASPEMR 2021 TOKYO の大会報告があわせて行われた。APSMER TOKYO は、参加者 236 名、発表者 198 名、発表件数 153 件と盛況であった。10 年前に名古屋で第 1 回大会を開催して以来、日本人の参加者が多く、今回は中国からの参加者も多かった。また参加国数は 21 に及び、多様な国から参加者があった。なお日本人発表者 99 名の内 88 名が本学会員で、ワークショップの成果が確実に顕れていた。Proceedings には 49 本の論文が掲載され、ISBN を取得してオンラインで大会前に出版済である。

(3) 広報委員会 (権藤)

ニュースレター第 86 号はオンラインでの発行になるため、11 月 10 日頃をめぐりに各記事については原稿を送付されたいこと、第 87 号の「会員の声」は近畿地区と九州地区の担当であり、原稿締切は 2 月 11 日を予定していることが報告された。

(4) 第 10 回ワークショップ (佐野)

ニュースレター第 85 号で報告したとおり、準備を進めていることが報告された。

2. その他

近畿地区の 9 月例会について村尾理事から次のように報告があった。詳細をニュースレターで報告しているとおり、大会実行委員会企画について、事前のリハーサルを兼ねて例会を開催した。これにより様々なトラブルや主に機器面での問題が判明したが、本番である大会に向けて改善策を検討する機会となった。

最後に、今川会長から理事への感謝と任期残り半年の協力依頼が述べられ、ぜひ来年の大会での打ち上げを期待したいと添えられた。加えて、明日からの大会運営の協力依頼とこれまでの大会準備への謝意が述べられた。

.....

4. 第25期役員選出のための理事会

日 時：2021年10月16日（土）12:15～12:40

場 所：オンライン開催（Zoom）

出席者：有本、石井、石上、伊藤、今川、今田、小畑、菅道子、木村、國府、榎藤、齊藤、笹野、
嶋田、菅裕、津田、三村、山下

委任状：新山王、杉江、寺田

はじめに、本会が会則第14条の7に基づいて開催されることを確認した。

1. 次期副会長の指名

有本真紀会員が指名され、承認された。

2. 次期事務局長の選出

齊藤忠彦会員を選出した。

3. 次期常任理事の選出

以下の各会員を選出した。

今川恭子 今田匡彦 菅道子 木村充子 笹野恵理子 嶋田由美 杉江淑子 菅裕 寺田貴雄

4. 理事互選の委員の選出

編 集 委 員：今田 匡彦 津田 正之

国際交流委員：菅 裕

広 報 委 員：笹野恵理子 の各会員を選出した。

5. 次期会計監事の推薦

島崎篤子会員、伊藤誠会員を推薦することとした。

6. 地区担当理事の選出（後日選出となった地区担当理事名も含む）

以下の各会員を選出した。

北海道：寺田 貴雄 東 北：今田 匡彦

関 東：小畑 千尋 北 陸：齊藤 忠彦

東 海：新山王政和 近 畿：笹野恵理子

中国四国：三村 真弓 九 州：菅 裕

7. 教科教育学コンソーシアム（会長特命）理事の委嘱

伊藤真会員に委嘱した。

8. 理事会 ML について

副会長に指名された有本真紀会員が理事会 ML を作成する。

9. 2022年度第1回理事会の予定

2022年4月23、24日頃（未定）に開催予定。改めて連絡をする。

10. 引継ぎ常任理事会の予定

2022年2月20日（日）16:00 から、現常任理事と新常任理事の引継ぎを行う予定。

オンライン（Zoom）での実施予定。

7 事務局より

事務局長 木村 充子

1. 年度会費納入のお願い

年度会費 (7,000 円) 未納の方は至急お支払いください。会費未納の場合、大会での発表、送付物の受け取り、論文投稿などに支障が発生します。2年間会費を滞納すると自然退会になります。会費納入後、約2週間で事務局より年会費振込の確認メールが自動送信されます。メールが届かない場合は事務局までEメールにてご連絡ください。

2. 会員専用ページ (マイページ) について

11月1日より、マイページのURLが変更されました。新しいURLはこちらです。

<https://jnk4.org/JMES-office/Jmes-kainDB/myPage/>

そのため、変更以前のURLにアクセスし、住所変更などの手続きを行っても、正しく反映することができません。11月1日以前に、マイページを「お気に入り」などにブックマークされた方は、新しいマイページのURLにアクセスして、再度ブックマークし直してください。

3. 会員情報 (所属先・住所など) の変更について

学会からの送付物が「宛先不明」にて戻ってきてしまうことが少なからず生じています。所属先・住所等に変更があった場合は、速やかに修正登録をお願いします。会員情報の変更は事務局では受け付けておりません。学会HP「会員個人専用ページ (「マイページ」)」からご自身で変更していただきますようお願いいたします。メールアドレスが未登録の方は「マイページ」に入ることできませんので、事務局まで至急メールアドレスをご連絡ください。

4. 事務局について

新型コロナウイルスの影響拡大に鑑み、ご用件はEメールでのみ承っております。ただし、お返事までに数日かかることがあります。ご了承ください。

【編集後記】

コロナ禍でオンラインが新しいスタイルになりつつある2021年、9月18～19日にはAPSMER 2021 TOKYO大会が開催され、15ヶ国以上の国々から200名以上の参加者を迎え、10月16～17日には第52回京都大会が440名近くの参加者を獲得開催されました。本誌(86号)記事からも研究発表やワークショップ、セミナーの新しい提示のしかたが生まれていることが伺えます。またR.マリー・シェーファーの訃報を本誌でお伝えしなければならず、広報委員会も深い悲しみに暮れていました。「万人のオンガクを追求」したシェーファーは、オンラインの音、音楽、教育をどんな風に捉え、評価するのだろうか。そんな問いが脳裏を過る中、Web配信の編集作業を進めています。来号は紙媒体の発行予定です。引き続き皆様からの最新の情報やご意見をお待ちしております。(菅 道子)

【日本音楽教育学会事務局】

所在地：〒184-0004 東京都小金井市本町5-38-10-206 Tel. & Fax. : 042-381-3562

E-mail : (半角) onkyoiku@remus.dti.ne.jp

私書箱：〒184-8799 東京都小金井郵便局私書箱26 *郵便物は私書箱へ

事務局員：宇田川・亀山・徳山・若尾

※新型コロナウイルスの影響拡大に鑑み事務局開局の状況が不規則となることがあります。

ご用件はEメールにてお願いいたします。